



ごみの分別を進めよう

ごみゼロ 燃やさないごみ政策を

漢人明子(市民自治)

ごみの焼却は限りある資源の浪費、重金属など有害物質の空中処分であり、世界は脱焼却に向かっている。世界の焼却炉の3分の2が集中する日本はかなり異常だ。(ア)脱焼却の基本的な考えを伺う。(イ)小金井の資源化率は三多摩トップと広報してきたが、中心



野川の水涸れ問題

若竹綾子(湧湯環境ク)

野川枯渇の原因は、少雨や市街化等が考えられるが、一層の湧水涵養と、枯渇を心配する市民へ情報発信を。環境政策課長 雨水浸透ますは4万7千基になり、下流の三鷹、調布の湧水が涸れなくなった。上流他市に地下水涵養を求める方法や情報発信



方法を都と協議する。

②市の住基ネット意識調査で疑問を感じたことがある。が7割超。内89・6%が情報漏えいを危惧した。「安全性確保なく接続しないで」など、多くの自由回答も。希望選択制以上を視野に検討委員会設置を。横浜市の緊急避難的な段階的参加を促せばよい。



再びコミュニティビジネス

青木ひかる(市民の党)

①コミュニティビジネスについて昨年6月に取り上げたが、その後市民起業フォーラムに多くの参加者があり、市民の意欲が証明された。(ア)空き店舗などを利用して、場所の提供と家賃補助など起業の支援をしてはどうか。(イ)信用金庫などからNPOをはじめ

とする事業者が、融資を受けた場合の利子補給を行ってはどうか。市民部長 (ア)市民起業のサポートセンター設立に向けた調査事業を始めたところなので、その中での一つの検討課題ととらえている。(イ)小口事業資金の融資審議会の中で利子補給の準備を進める方向性

は1・5倍の余裕がある。多摩地域全体の連携による焼却施設の縮小、脱焼却は可能か。市長 (ア)脱焼却は世界的な流れ。日本もそういう方向に向かっているのではないかと。ごみ対策課長 (イ)26市中10位。(ウ)現状では難しい。(エ)基本計画策定の中で議論はしたい。(オ)東京都の強力な指導による共同処理体制が望ましい。「母子家庭への自立・就労支援策」男女平等な市役所に向けても質問しました。

公平・公正な公募委員の選考方法について

藤村 忍(生活者ネット)

市の条例や計画を、市民からの公募委員を入れた審議会などを設置し、市民参加で策定することが一般的となっている。委員を公募する際、作文による選考が行われているが、(ア)どういった基準で選考されたのか、市民への説明責任を果たすため、選考の基となる



地下水と湧水を保全し 雨水の活用を進めよ

小山美香(生活者ネット)

市の雨水浸透ますの設置率は毎年2%ずつ伸びているが、地下水と湧水が涸れないようにするため、下水に流れる雨水を減らして雨水の最大限の活用をしていく必要がある。(ア)市内に年間どの位の雨が降り、その内どの位の地下水浸透し、どの位下水道に流れているか、



都市建設部長 (ア)どの程度のものでできるか担当課と調整してみる。(イ)JRでも浸透を基本として処理すると報告を受けている。環境政策課長 (ウ)技術的な内容になるので、専門家の会議の中で検討していきたい。防災交通課長 (エ)防火水槽に雨水を活用するのは、構造上難しい。貯留槽を災害対策用に活用する事は有効な方法であり検討したい。その他に、「緑地の保全を市民の力で」について質問した。

議員研修会を開催します

市議会では、議員活動の充実を図るために議員研修会を行っています。今回は、講演会を実施することとなりました。

講演内容 地方分権時代を迎えての地方財政について
講師 東京大学大学院教授・経済学部学部長 神野直彦氏
日時 平成16年11月15日(月) 午後5時30分～
場所 小金井市役所第一会議室 (本庁舎3階)

◎市民の方で受講を希望される場合は、議会事務局にお問い合わせください。
TEL (042) 387-9947 (直通)



西庁舎前にある雨水浸透ます実験装置